

# 地域医療連携だより

高松市立病院  
基本理念

『生きる力を応援します』

高松市民病院  
基本方針

- 1『リーディングホスピタル』として、高松市医療全体の最適化を目指します。
- 2『理想的な医療』を、ファインチームワークで提供します。
- 3『まごころのある医療人』を全力で育成します。

平成27年

11月号  
〈第20号〉

病院屋上からの眺望



## 診療科紹介 外科



### 医師紹介

和田 大助 院長

(昭和55年卒)、ワンダーフォーゲル部。

福田 洋 院長補佐・外科診療部長

(昭和58年卒)、硬式テニス部。

尾形 頼彦 医長・内視鏡外科センター長

(平成8年卒) スキー部。

金村 普史 医長

(平成10年卒)、準硬式野球部。

篠原 永光 医長

(平成11年卒)、剣道部。

四方 祐子 副医長

(平成19年卒)、ゴルフ部。

後列左より

尾形

金村

篠原

福田

和田

四方

前列左より

事務 久保

看護師 手崎

いつも患者さんの紹介・逆紹介ではお世話になっています。当院外科の紹介をさせていただきます。当院外科は、昭和40年代に徳島大学第一外科から田北 周平教授が院長として赴任されたのを機に徳島大学からの派遣となり今日に至っています。高松

市の中核病院・地域医療支援病院としての責務を自覚し、EBM（根拠に基づいた医療）のある高度の機能を発揮するよう日々努力しています。高度の医療水準を満たすのはもちろん、全人的でオーダーメイド的なきめ細やかな医療の実践を心掛けています。

日頃は、前頁の常勤医師6名で診療を行っています。我々市民病院外科の基本姿勢はエビデンスに基づいた、学会で認められた範囲での最先端の手術を安全・確実に行うことです。患者さんは、それぞれ生活環境や背景疾患も異なり合併症の有無等病態も異なります。当科では標準手術のみでなく患者さんに応じて縮小手術を選択したり、必ずしも手術ではなく動脈塞栓術等の血管インターベンションや抗がん剤治療を選択したりすることもあります。

一方、高度進行がんと考えられる症例に対しては拡大根治手術を行う場合もあり、各種治療を組み合わせた集学的治療を行うこともあります。毎週カンファレンスと回診を行い、外科医全員で治療方針の決定にあたっています。対象疾患は、消化管（食道、胃、小腸、大腸）、肝胆膵、内分泌外科（乳腺・甲状腺）、ヘルニア、痔疾患、下肢静脈瘤等呼吸器外科と心血管外科以外の全ての外科領域の疾患です。消化器外科、肝胆膵外科、内視鏡外科のそれぞれの分野に指導医あるいは専門医を配し、高度手術を安全・確実に行えるよう心掛けています。

次に、当院外科の特徴を御紹介します。

## 1. 内視鏡下手術

尾形（内視鏡外科学会技術認定医）をはじめ、篠原、四方を中心として積極的に内視鏡下手術に取り組んでいます。内視鏡下手術は傷が非常に小さく、低侵襲で患者さんにやさしいのみでなく、拡大視効果により根治性も高く最近急速に普及してきた手術です。その反面、高度な技術や機器を要し、十分な体制で行うことが要求されます。当院外科では全手術の80%程度を内視鏡下で行っています。食道癌の治療においては胸部・腹部操作は内視鏡で行い、特に胸部操作は腹臥位で良好な視野で行っています。ヘルニア根治手術もほぼ全例内視鏡下で行っており、ほとんどの患者さんは1～2泊で退院できています。その他、虫垂炎の緊急手術も全例内視鏡下で行っています。精密な治療が行える上に合併症はこれまでの開腹手術よ



り少なく、早期離床・早期退院により患者さんの満足度も非常に高く、今後安全性を確保した上で、ますます発展させていこうと考えています。

## 2. 肝胆膵外科手術

日本肝胆膵外科高度技能指導医（高度技能医）である和田、福田、金村を中心に肝臓癌・胆道癌・膵臓癌の治療に取り組んでいます。この領域の癌は根治性と侵襲性が相反することが多く、常に患者さんの安全を第一に考え全員で治療方針を協議し決定しています。肝・胆・膵領域の内視鏡下手術も安全を確保しながら積極的に取り組んでいます。術後の抗がん剤治療や手術不能例に対する血管インターベンション治療、再発に対する治療、緩和治療に至るまで全ての治療を一貫したものとして当院外科で行っています。

## 3. 救急対応

時間内・時間外とも全ての時間帯においてオンコール体制で対応しています。重症例、緊急症例は当院の日当直に御連絡いただければ速やかに担当外科医に引き継ぎさせていただきます。

以上、当院外科の紹介をさせていただきました。お困りの症例がございましたら何時でも御相談いただければと存じます。これからも各医療機関の先生方とは「顔の見える、緊密な関係」を築いていきたいと考えています。今後とも御指導・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

（文責 福田 洋）

## 『第4回 高松市立病院学会』開催

10月3日（土）に香川県教育会館ミューズホールにて、高松市立3病院（高松市民病院、塩江分院、香川診療所）合同の『第4回 高松市立病院学会』を開催しました。

今回は、名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部の長尾<sup>よしまさ</sup>能雅教授をお招きして「医療安全と医療事故調査制度」という演題で御講演をいただきました。講演内容から、院内で医療事故が起こった場合、どのような体制でどのような調査を行えばよいかの方法等を学ぶことができました。その他、院内から12題の発表を行いました。また、昨年度より地域医療機関の皆様にも本学会を公開しているため、院内関係者だけでなく、日頃から病診連携において御協力をいただいております近隣医療機関関係者の方々にも御参加いただくことができました。誠にありがとうございました。

来年度も本学会を開催予定としておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 緩和ケア推進イベント『第3回 おいでまいよ会』開催

緩和ケア認定看護師 長尾あけみ

日本ホスピス緩和ケア協会では、2006年度より「ホスピス緩和ケア週間」を定め、緩和ケアの普及啓発活動に取り組んでいます。当院では、10月9日（金）に3回目となる『おいでまいよ会』を開催し、「がんと言われたその日から」をテーマに、教育講演会、患者・家族の交流の場としてお抹茶サロン、日用品バザー等を行いました。参加された方からは、「緩和ケアを知ることができた」「考える機会になった」等の御意見をいただくことができました。

今後も『おいでまいよ会』に多くの方に参加していただき、緩和ケアが身近なものとなるように活動していきます。



## 『第1回 病院文化祭』開催

11月15日（日）に高松市民病院において、市民の皆さんが市民病院の施設や職員とふれあい、自らの病院として理解を深めていただく契機とするため、『第1回 病院文化祭』を開催しました。また、今年度は、高松市合併10周年にあたることから、記念事業として塩江分院・香川診療所も参加して市民公開講座も同時に開催しました。

文化祭の企画にあたっては、6月から、医師をはじめ、全職種からなるプロジェクトチームを立ち上げ、月2回のペースで会を開き、イベントの内容を練り上げ、当日は本市と包括協定を結んでいる徳島文理大学の学生さんもスタッフに加わっていただきました。

メインステージでは、宮脇保育所の子どもたちによる合唱で幕が開き、日頃静かな病院内に、元気な歌声がこだましました。引き続き、職員が咳のエチケットマナーや医療安全についての寸劇を体を張って演技し、マジックショーでは、本業はマジシャンと思わせる程のマジックを医師が披露し、観客の皆さんを大いに沸かせました。最後は、高松まつりに参加した職員の指導の下、観客と職員が一緒になって一合まいたを踊りました。

体験コーナーでは、子どもたちがお医者さんや看護師さんに扮する等、普段体験できないことに喜んで参加するとともに、大人たちはメタボリックシンドロームや骨密度の結果を職員に真剣に尋ねていました。また、来場者の方は、抹茶のお接待でつろぎ、けんちん汁に舌鼓を打つ等、様々な催しで、市民病院を十分堪能されたことと思います。

来年は、より多くの市民の皆さんに御参加していただけるよう、さらにパワーアップした企画を考えてまいりますので、どうぞ楽しみにしてください。



検査コーナー



おかしで調剤体験



放射線科 小濱医師によるマジックショー



作品展

## 合併10周年記念事業『高松市立病院市民公開講座』開催

市町合併により市立病院となった3病院の連携と交流を深めるため、平成18年度に始まった市民公開講座が、この度10回目の節目を迎え、合併10周年記念事業として、11月15日（日）、第1回病院文化祭に合わせ、当院玄関ホールで開催されました。

今回は、11月14日の世界糖尿病デーにちなみ、内科の大黒 由加里医師より「糖尿病について（糖尿病の基礎知識）」講演いたしました。

玄関ホールを埋め尽くした50人に及ぶ市民らを前に、わかりやすくパワーポイントを用いて、糖尿病の社会的問題や診断基準、症状、治療方法について説明しました。聴講者は、時折メモをとりながら熱心に聞き入る等、好評を博しました。



## 『第4回 地域医療連携カンファレンス』開催

形成外科 杉野 博崇

平成27年11月20日（金）に、『第4回 高松市民病院地域医療連携カンファレンス』をロイヤルパークホテル高松で開催しました。

講師には、徳島大学大学院医歯薬学研究部 形成外科学の橋本 一郎教授をお迎えして、「進歩する形成外科手技：一般診療に関連するトピックス」という演題にて、御講演いただきました。各種研究会等の多い開催日にも関わらず、地域医療機関の先生方にも多数御参加いただき、また、当院医師・職員を含め合計参加人数が約70名にのぼる盛会となりました。

橋本教授はマイクロサージャリー（顕微鏡下手術）が専門で、腫瘍切除後の再建、糖尿病性潰瘍等の難治性潰瘍、顔面神経麻痺、乳房再建等幅広い分野で活躍されています。今回は、形成外科を専門としない先生方を主に対象とし、形成外科で行っている再建手術を中心に御講演いただきました。頭頸部がん等の



橋本 一郎 教授



腫瘍切除後の下顎骨も含めた再建、外傷や糖尿病性潰瘍の再建、顔面神経麻痺に対する機能的再建、乳房再建（皮弁、インプラント、そして脂肪移植）や、以前世界的に話題になった顔面移植や手の移植等についても触れられました。豊富な量のスライドを用い、視覚的にもわかりやすく、大変興味深い内容でした。

講演終了後の意見交換会におきましても、多数の先生方に御参加いただき、有意義な意見交換の場をもつことができました。御多忙中、多数の地域の先生方に参加していただきまして、充実した地域医療連携カンファレンスを無事に開催できました。誠にありがとうございました。

今後も継続して地域医療連携カンファレンスを行ってまいりたいと考えていますので、何卒よろしく願いいたします。



## 次回地域医療連携セミナー開催のお知らせ

**日時** 平成28年2月17日（水）午後7時～

**場所** 高松市民病院 西館2階 西会議室

**演題** 「私達が行っている術後鎮痛法について」 麻酔科 山口 由紀 医師  
「当院における気胸の治療について」 呼吸器外科 加藤 歩 医師

※事前申し込みが必要です。

問い合わせ先：地域医療連携室 TEL:087-834-2181（代表） FAX:087-834-2223（直通）  
日本医師会生涯教育制度の体験学習1単位カリキュラムコード（84, 42）を取得いただけます。

当日は、軽食を御用意しております。

一人でも多くの先生方の御出席をお待ちしております。

## 『医療・介護関連施設職員研修会』開催



### 第18回 医療・介護関連施設職員研修会を通して

9月2日（水）に『最近の薬物療法』の演題にて、当院薬剤師より15名の施設職員の方に講義を行わせていただきました。当日行ったアンケート調査より、「簡易懸濁法についてよく分かったので活かしていきたい」「フェンタニル貼布剤を使用する際、フェンタニルのレスキュー製剤の活用を考えたい」「糖尿病治療に用いる経口薬について詳しく学べた」等多数の御意見をいただくことができました。御参加ありがとうございました。



### 第19回 医療・介護関連施設職員研修会を通して

10月20日（火）に『エンゼルケアについて』の演題にて、当院緩和ケア認定看護師より27名の施設職員の方に講義を行うとともに、実際にエンゼルケアの様子を見学していただきました。当日行ったアンケート調査より、「グリーンケアについて考えさせられた」「エンゼルケアの仕方が変わっていたので、そのことを伝えていきたい」「エンゼルケアの中で、口腔ケアや保湿が大切であると知れてよかった」等多数の御意見をいただくことができました。御参加ありがとうございました。

## 地域医療連携室からのお知らせ

紹介患者さんのFAX予約受付時間を午後6時まで延長します。また、紹介患者さんの予約に関する問い合わせのみ直通電話・FAXフリーダイヤルを設置します。これに伴い、「高松市民病院FAX診療申込書」を変更しましたので、今後は新しい様式（H27.12.1改定版）を御利用ください。

**受付時間：平日 午前8時30分～午後6時00分**

**電話 (087) 834-2235(直通) / (087) 834-2181(代表)**

**FAX (087) 834-2223(直通) / 0120-834-224(フリーダイヤル)**

※フリーダイヤルは県内固定電話からのみ対応しております。

※救急患者、当日診療に関する問い合わせは、従来どおり代表番号を御利用ください。